

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700249		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホーム はるすのお家いわくら		
所在地	愛知県岩倉市大市場町郷廻310番地		
自己評価作成日	平成27年1月1日	評価結果市町村受理日	2015年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&livingsvcCd=2374700249-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成27年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加する機会が多く入居者さん職員共に楽しめる環境である(軽トラ市・町内会の夏祭り・芋煮会・敬老会等) ・地域ボランティアの協力が得られている(フラダンス・大正琴・オカリナ・畑づくり等) ・気候や気分に合わせて突発的な外出・外食が可能であり、閉じこもり防止対策になる ・笑い声が多い ・入居者さんが文句も含め要望を言いやすい環境で、職員の要望も叶いやすい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>前住地から転居してまだ三年に満たないが前住地からの地域役員との繋がりが密接でこの地でも地域との関係は構築されている。ホームの中に地域交流室があり地域の人へ解放されている。現在は子供達が集ったりボランティアの練習室になっているが将来はもっと活用されると思われる。ホームの理念は「その人がその人としてその人らしく生きる為に支え続ける」とある。当人が思う自分らしさと他者が推測するその人らしさは常に一致するとは限らないがその努力は大切だと思われる。管理者の認知症者へのケアの方針が一貫しており、スタッフも勉強会やミーティングを通して理解しケアに努めている。又スタッフの精神的なフォローに気を配り、直接口頭で話せない様な時はメールを活用している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は玄関に掲げ、朝礼の際にスタッフで復唱し、その理念に基づいた介護・活動を行っていきけるよう日々取り組んでいる。その理念に反する言動・行動については管理者がスタッフに指導している。	ホームの理念は玄関に大きく掲げているが毎朝の朝礼時に復唱したり、月毎のシフト表に書き込み常に意識してケアに入る様にしている。不適切な言動がみられた時は管理者がその都度注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さん・民生委員さん・ボランティアさん・地域の方々に情報をいただいたり誘っていただきながら地域行事へ参加し交流している(挨拶を基本に散歩、町内の夏祭り、芋煮会、軽トラ市、野菜のおすそ分け、子ども110番の家等)地域への奉仕も兼ねて、散歩に出かける時はゴミ拾いをすることが、少しずつスタッフに浸透してきた	当地区に転居してまだ3年目だが民生委員や地区の区長が協力的で、地域の情報や要望を伝えてくれる。町内会や地区の行事には出来るだけ参加しており、近所の住民や子供達との交流もある。地域ボランティアの来訪も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者さんと散歩や地域のスーパー・喫茶店等へ出向き、地域の方々と何も変わらない生活をおくっていることを知って頂くよう努めている。 いづから認知症ケアアドバイザー会に参加し市民ボランティアの一員として活動しているスタッフもいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者さんの状況や、活動報告をし意見やアドバイスがあれば活かしていけるよう努めている	二ヶ月に1度の開催日に入居者本人と入居者家族が必ず参加している。行政や地域の役員からの情報、要望を受け取ると共にホームの取り組みや状況を伝えている。入居者本人が参加する事で認知症を患っている人への理解が深まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類を郵送ではなく持参することで、空室状況や入居者さんの状況などその時の状況を口頭で報告し書類や電話では不足になるようなやり取りがないように努めている	書類類は必ず窓口まで出向き手渡しをしている。その際相談や状況報告を担当者にしている。今年から担当が変わり関係を構築中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回以上は身体拘束をテーマにした勉強会を行い、絶対に行ってはいけないことだという認識をスタッフ全員にもたせる努力をしている。防犯以外の玄関の施錠は絶対にしない。言動による拘束については管理者がその場で指導しているやむを得ず拘束を必要とする場合についても皆で話し合い、家族に理解して頂いたうえで行う	夜間のみ玄関は施錠している。勉強会で眼に見える拘束については認識が深まってきたが、言葉による拘束には認識が甘い時があり、その都度注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回以上は虐待防止をテーマにした勉強会を行い虐待を起さぬ事業所で有り続けられるよう努めている。そんなつもりはないのに、というような言葉の虐待にもなるようなスタッフの言動については、管理者が耳にした時にはその場で直接指導するよう努めている。怪我や痣を発見した時は、どのように出来たものか検証し家族にも必ず報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用している利用者もあり、今後増えていくようにも感じている為、勉強会の機会を作る必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する関係書類の説明には、しっかりと時間を取るようしており、分かりにくい点・不明な点はないか確認しながら説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族のみの懇談会を行い、そこに介護相談員さんにも参加して頂く機会を作っていたが、今年度は行っていない。	家族会はないが運営会議には必ず1名以上参加して意見、提案をもらっている。他に面会時随時対応している。対応は主に管理者、計画作成者がおこなっているが場合によりスタッフも加わっている。ホーム内の行事が多くホーム通信の他にブログに頻回に掲載しており遠方の家族にも本人の状況がよく解ると好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談の際にスタッフの声を聞くよう努めている。それでも話せないスタッフについては現代的な方法を用いて(メール)心の声を引き出すようにしている。内容により出来る事は実行し、出来ない事は何故出来ないか説明し、風通しの良い運営に努めている	半年に一度の個人面談や日々のミーティングでスタッフの意見、提案を受けている。内容によってはスタッフ同士や計画作成者が対応するが最終的には管理者に報告、相談がある。管理者に直接話しにくいスタッフにはメールでコミュニケーションをとることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の、管理者は個々の求める条件に耳を傾け、可能な限り働きやすい環境になるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	雇用形態や年齢に限らず、必要に応じ無理強いせず研修に参加できる機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス事業所が2カ月に1回集い意見交換会を行っている。 交流会のある研修に参加することで、学び以外の交流ができる機会にも参加できるよう促している		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	質問攻めにするのではなく、世間話の中から思いをくみ取り、安心して生活して頂けるような環境づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	馴染みの関係、話しやすい関係になる為の時間のかかり具合は人それぞれなので、入居者さんの状況の報告しながら思いを話して頂けるようじっくり付き合っていくようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を聞き、何を求めどんな情報を欲してみえるのか話しやすい雰囲気づくりにも努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で得意なこと好きなことを見つけ、それを役割として行っていただき、共に暮らしているという雰囲気づくりに努めている。スタッフは介護する側と見られぬ様、制服や名札などは用意しない		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆を大切にしながら、協力もいただきながら運営している事を伝えつつ、協力に対して感謝を忘れぬ姿勢もっている。入居前にもつれてしまった絆がある場合は無理強いせず、ゆっくり関係を見守っていく姿勢でいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問・知人との外出・墓参りなど、知り得た情報の中で出来る限りの対応に努めている。馴染みの人に対して恥ずかしいという気持ちがある場合も考えられるため、入居者さんの言葉や心の声を逃さぬよう努めている	地域外からの入居者は地域で行われる行事に積極的に参加したり散歩中に挨拶することで馴染みの関係を構築中である。知人の訪問や、外出は出来るだけ本人の意向に沿う様にしている。個人的な外出にスタッフが付き添う事が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立を好む方もみえるため、入居者さん同士の相性を見極めながら日々の関わりや座る位置など検討している。仲良くみえても我慢している場合もあるため、表情や言動・調子を見ながらストレスが大きくならぬ様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に1回以上、連絡や来てくださる方がいる。退去して数年たった後に今年来てくださった家族様はその頃から努めるスタッフと話をしたり、懐かしい話しに花を咲かせるという事があった。今後も求めに対して応じるという姿勢でいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在の姿はもちろん、過去の姿も家族や入居者さんから聞き、その中からみえる意向と感じる意向をスタッフで話し合いながら本人本位の目線で検討していく姿勢でいる	スタッフ全員が本人の生活暦を把握した上で、夫々が受け取った入居者本人の想いをミーティングの場で交換検討し、最善の対応が取れる様努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を通じて把握している。家族から聞けなかったことも生活が始まってからの世間話で耳にすることがあれば家族に聞くなど確認作業している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声に耳を傾け、動作や表情に目を傾け現状把握を行い、スタッフはミーティングや日々の申し送り等で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にスタッフ全員が介護計画の評価に参加し、その人に必要な介護計画の作成に努めている。家族の意向は、面会時に聞く事が出来るよう話しやすい雰囲気づくりに努めている	三ヶ月に1度、計画作成者を中心にスタッフも全員で見直しを行っている。それ以外にスタッフから意見や疑問があればその都度、管理者や計画作成者が対応している。家族とは面会時面談し、意向を聞き取る努力をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、職員間で共有、介護計画の見直しにも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんの状態に合わせ、求めに応じ、出来る限りの対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の把握は難しい。しかし、分かる方の資源を利用し楽しめるよう支援している(ボランティア・馴染みの喫茶店・軽トラ市など)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を重視しかかりつけ医は決めていただいている。協力医療機関を希望された場合は2週に1回の往診と、深夜早朝の携帯電話での対応、また日常的に相談がしやすい環境にあるため、スタッフも安心かつ家族さんからの評価も高い	契約時に話し合いご本人ご家族の希望を重視しこれまでのかかりつけ医を受診してもらっているが、現在は多くの入居者が協力医を利用している。状態に応じて総合病院や専門医へのパイプ役を協力医がやってくれるため安心度は高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が必要に応じ対応してくださっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	備えての関係づくりは行っていない。しかし、入院した場合、早期の退院が可能な状態の時には、幾度か電話や足を運ぶなどし、医療機関と連携を図るよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの全員対応はグループホームの本来の目的とは異なると考え、各フロア1人と考えている。馴染みの関係で最後までお付き合いしたいという考えは持っている為、そのような時が来た場合は主治医・家族と話し、家族に出来ることと出来ない事を話し理解が得られた場合は実践していく姿勢でいる	契約時に十分に説明し、また重度化して行く中でご家族と何度も話し合いながら終末期の方針を確認している。過去に看取りは1名のみ経験があり、今後は各フロア1名まででご家族の協力も得て三位一体として看取り介護ができるのであればやって行く考えがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員のスタッフが普通救命講習を、一部のスタッフが上級救命講習をうけている。実践力を身につけるためにはどの程度定期的に行うべきか、消防署に相談しながら今後も行っていく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が身につけているとは言い切れないため、年2回の訓練以上に追加が必要と検討している	現在2階のユニットが比較的要介護度が上がってきており火災等の避難が課題であったが消防署と相談の結果ベランダへの一時避難をすれば消防署の対応で2階から避難できるような体制をとっている。今後は災害時の地域との連携も検討していく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんの人格に合わせた言葉かけに努めている。馴染みの関係になると言葉が乱れてくるので、勉強会やミーティングで確認作業をしている。入居者さんを傷つけるまた傷つけた言動に対しては、管理者がその場で指導することもある	入居者とスタッフの関係性が良好であり、目線を合わせお一人おひとりの立場に立ったケアに努めている。管理者はスタッフのことを観察しており、問題点があれば逐一すぐに注意指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に威圧感や抑圧感のない言葉かけや雰囲気づくりに努め、家族の様に思いを出しやすいよう努めている。買い物・外出・食事の場面において選んでいただける機会を設けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活と健康面を考えながら時には決めた日課で生活を引っ張ることも必要と考えるが、個々の性格や今までの生活や体調などを考慮し希望にそって支援している場面も多くある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、服装、化粧など、個々に合わせて支援している。選ぶことが出来ない方については持っている洋服の雰囲気でスタッフがコーディネートしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事はやっていただく、という考えのもと一人一人の力量に合わせて食材カット、調理、盛り付け、片付け等と行っていただいている。苦手な方にはストレスになるため無理強いしない	食事は最大の楽しみと考え、様々な工夫をスタッフが考えている。近隣に「はるすの畑」を持ち、季節の野菜を栽培し食べている。入居者お一人おひとりの希望を聞きながら可能な限り積極的に外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体バランスや排便の有無などみながら必要に応じて多く促したりしている。水分を摂りたがらない方もいるため、好みの味を見つけたり、液体が進まない時はゼリーやプリンなど促すこともある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	随時と夕食後の口腔ケアについては、一人一人の状態に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットやオムツを使用し入居されても能力に介助を追加し外せる方は外していく姿勢でいる。無理してパットやオムツを使わない事で汚染するとプライドが傷つくことにもなるため、慎重に観察しながら対応を決めている	お一人おひとりの状態や季節に応じて、注意深く観察し記録もとりながら排泄パターンを把握して、トイレ誘導のタイミングを変えて支援している。こうと決めつけず状態変化の把握に努めることにより失敗等を防ぐことができると考え実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝1本乳製品を飲んでいただいている。水分を促す、便通に良いと言われる食材を利用する、運動を促す等下剤だけに頼らぬ対応に心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日入れるような準備はしている。毎日入りたい人には出来る限り入って頂き、入りたくない方も週2回は入って頂けるよう支援している。入る順番や時間はスタッフ都合になっているため求めがあれば改善していく姿勢でいる。季節を感じる菖蒲湯や柚子湯も行っている	介助が必要な方が多くなってきており、全て希望通りには行かないが、ご本人の希望にできる限り合わせて、入浴回数を固定すること無く、好きなようにゆっくり入っていただけるように努力している。季節に合わせた柚子湯・菖蒲湯なども楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は寝たい時間に寝ていただく、寝たいと言えない方は表情を見て促したりしている。昼間の眠りについては自由になっているが、寝過ぎは夜に影響を及ぼすこともあるためスタッフが様子を見て用事を見つけたりして調整している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を服用しているか入居時に確認し、変化についてはミーティングで確認している。処方箋は個々のファイルに綴じてあるが、全スタッフが把握している訳ではない為ステップアップが必要		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や楽しみ等は入居時に家族から聞きとっているが、日常会話の中から発見できることも多々あるため、スタッフで共有し支援につなげている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・喫茶店・買い物・外食など、天気とスタッフに余剰があれば希望に対応することが出来ている。普段行けぬ場所も同様に支援している。家族や地域の人々の協力を得るのが下手なので今後の課題ともなる	求めに応じて積極的に外出し楽しんでいただけるよう努力している。近隣の「軽トラ市」という移動販売には散歩がてらよく出かけている。誕生日にはご希望をお聞きし個別に外出することもある。ご家族や近隣の協力もあり、気軽に外出できるホームの雰囲気になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	起こりうるリスクを家族に説明し理解して頂ける方には現金を所持して頂いている。ホームで管理している方でも、出先で現金を渡し支払ってもらう機会も時にはある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方には行っていただいている。難しい方も年賀状に名前やコメントを書いていただくなどし、能力に応じて支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みや居心地は人それぞれと考えるため、シンプルが基本。季節を感じることでできる花や掲示をすることもある	派手ではなくシンプルな空間で統一している。近隣の方が草花を持ってきてくれることが多く、季節を感じる飾り付けができています。外出時の写真等も掲示し楽しい雰囲気づくりにしている。光が多く入るホームでありとても明るく感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ここで過しなさいという決まりは作っていない。集ったり離れたりも出来るようソファや椅子の設置もある。 天気や陽の光に合わせてカーテンを開ける等開放感のあるリビングにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ちこんでいただくよう家族には話し、空間づくりは家族に任せている。身体能力低下により車椅子を使うようになった場合は、大きく変化はさせず居心地も配慮し空間変更もある	リラックスできるプライベート空間になるようご家族に協力をお願いし、使い慣れた馴染みの家具等を持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は廊下一本で並べ、リビングから見える2部屋以外は人目を気にせず過ごせる空間になっている。スタッフが見守りやすい構造ではないが、暮らす人にとっては長屋のように住みやすい空間と考える		